

戦略的創造研究推進事業
(社会技術研究開発)
令和元年度研究開発実施報告書

「人と情報のエコシステム」

研究開発領域

「データポータビリティ時代における
パーソナル情報のワイズ・ユース実現支援
プラットフォームに関する研究」

柴崎 亮介

(東京大学空間情報科学研究センター 教授)

目次

1. 研究開発プロジェクト名	2
2. 研究開発実施の具体的内容	2
2-1. 研究開発目標	3
2-2. 実施内容・結果	3
2-3. 会議等の活動	10
3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況	14
4. 研究開発実施体制	15
5. 研究開発実施者	16
6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など	18
6-1. シンポジウム等	18
6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など	18
6-3. 論文発表	19
6-4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）	19
6-5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等	19
6-6. 知財出願	20

1. 研究開発プロジェクト名

データポータビリティ時代におけるパーソナル情報のワイズ・ユース実現支援プラットフォームに関する研究

2. 研究開発実施の具体的内容

(1) 「統合的なパーソナル情報 (Comprehensive and Integrated Personal Information: CI-PI)」 のワイズユース実現のためのプラットフォーム構築

- 1) CI-PI の状況を可視化しユーザ自ら俯瞰・管理できるソフトウェアを開発とその運用
 - ① 個人が自分の CI-PI の状況 (どんな情報が、どこにどれだけあるのか) を俯瞰する。
 - ② 個人が自分の CI-PI を、「貸し金庫」に入れるように密かに収集・確認・管理する
 - ③ 適当なフィルタリングに基づいて CI-PI を第三者に提供出来るのと同時に、その利用状況を自ら監視する
 - ④ ①-③を第三者に委託する
- 2) 個人の CI-PI の管理や運用・利用を支援するエキスパートのグループの拡大のためのコミュニティの構築
- 3) 個人の CI-PI 流通の仕組みを構築するエキスパートのグループの拡大のためのコミュニティの構築

(2) 国際調査に基づくシナリオ分析、影響分析

- 1) DP 導入のインパクトに関する国際調査の実施
DP 導入前後の CI-PI 情報の流通に関する意識や態度・行動の変容について、継続的に調査実施する。
- 2) CI-PI の流通メカニズムに関する国際調査とそれに基づくシナリオ分析、影響分析の実施
- 3) CI-PI の流通におけるトラスト形成のプロセスに関する国際調査とそれに基づくシナリオ分析、影響分析の実施

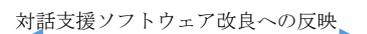
2-1. 研究開発目標

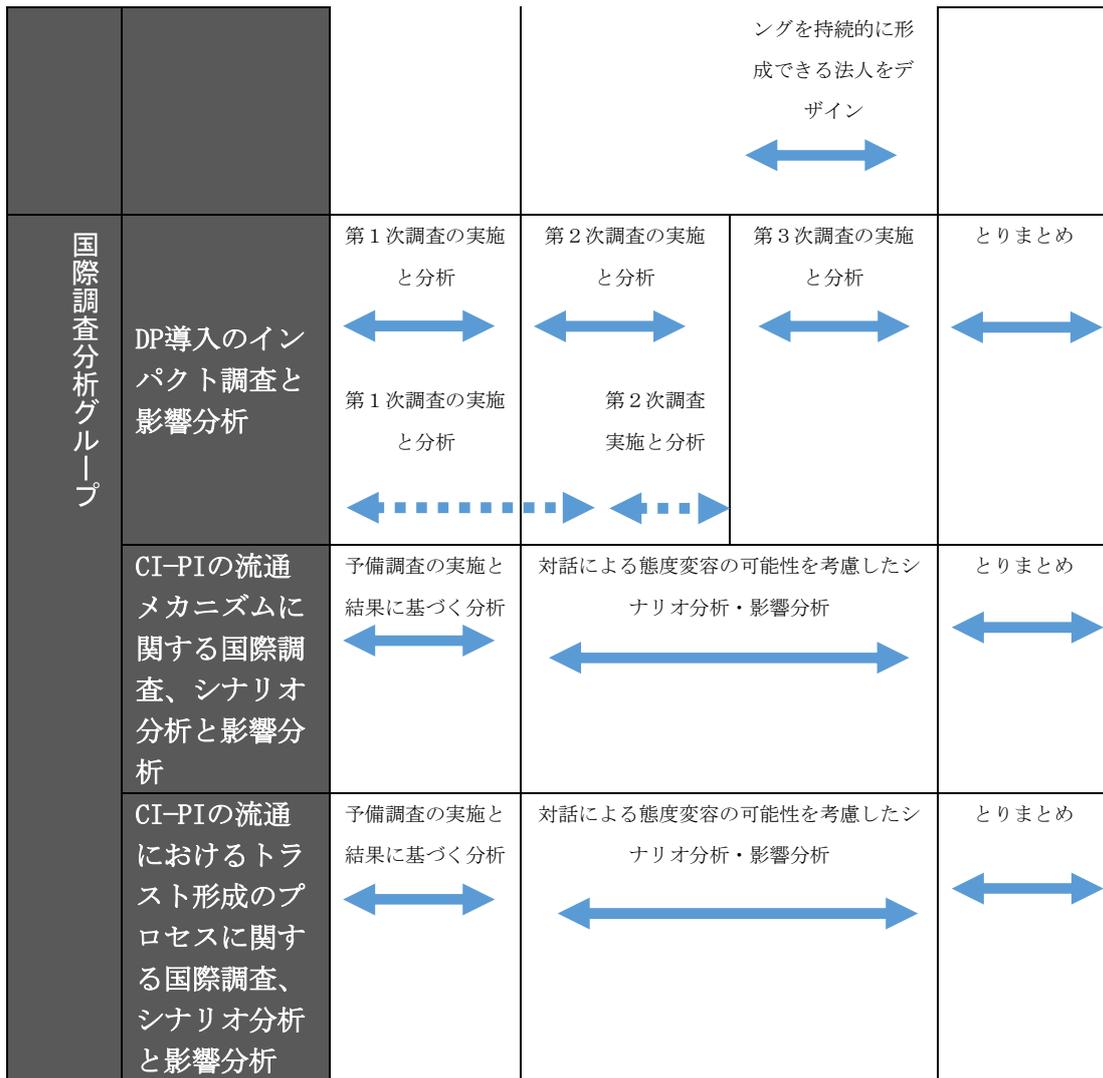
データポータビリティを通じて、個人がパーソナル情報の集約・流通と利用を自らコントロール可能することで、自然な「名寄せ」が進み、統合的なパーソナル情報が生まれる。それを賢く用いて、産業創出や公共への貢献等、社会全体に利益を還元できるエコシステムの構築を目指す。

統合されたパーソナル情報は従来の断片的な情報に比べ、圧倒的に大きな価値を持っているが、その管理・利用はさまざまなステークホルダーの利害に影響を与える。適切な利用（ワイズ・ユース）の仕組み、それを支えるトラストの仕組みをデザインするために対話のプラットフォームを開発する。また、本年5月にGDPR（一般データ保護規則）によるデータポータビリティが施行されたが、BeforeとAfterを直接計測できるこの貴重なタイミングを逃すことなく、人々、企業、社会・公共の意識・態度の変容、具体的なアクション等を日本、欧米、中国等で継続的に調査し、インパクトアセスメント、シナリオ分析を通じて対話のガイダンス、政策決定支援等に活用する。

2-2. 実施内容・結果

(1) スケジュール

	実施項目	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
CI-PIのワイズユース実現のためのプラットフォーム構築グループ	プラットフォームの開発と運用	プロトタイピング 	CI-PIの可視化にフォーカスした運用と改良と公開  	CI-PIの利活用支援に注目した運用と改良と公開 	運用と改良公開 
	CI-PIの管理や運用・利用を支援するエキスパートのグループコミュニティの構築と活動の実施	コミュニティの立ち上げと調査結果に基づく活動ガイドラインの検討 	対話の現場への参加と活動ガイドライン改定 コミュニティの拡大 対話支援ソフトウェア改良への反映 産業エコシステムを持続的に形成できる法人をデザイン 	法人としての活動を開始 	
	CI-PI流通の仕組みを構築するエキスパートのグループコミュニティの構築と活動の実施	コミュニティの立ち上げと調査結果に基づく活動ガイドラインの検討 	対話の現場への参加と活動ガイドライン改定 コミュニティの拡大 対話支援ソフトウェア改良への反映 制度設計やパフォーマンスモニタリ 	法人としての活動を開始 	



(2) 各実施内容

今年度の到達点①

(目標) CI-PI のワイズユース実現のためのプラットフォーム構築のための基盤を構築する。

実施項目①-1 :

PD の OpenPF 開発と運用

実施内容

- CI-PI の可視化にフォーカスした運用と改良と公開
 Info-bank ATM に接続することを想定し UI を更新。利用規約・プライバシーポリシーから抽出した PD 項目・利用目的を利用することを想定
- CI-PI の可視化に向けたデータ連携仕様の検討とダッシュボードの試作

データ連携仕様には Consent Receipt (Kantara Initiative) を拡張して検討。ワークショップでの利用を通じて改良を検討

- 各サービスの利用規約・プライバシーポリシーを収集する仕組みの試作

サービスの PD 要件の記載された利用規約・プライバシーポリシーをスクレイピングし、アーカイブする。取得した利用規約・ポリシーからの機械学習による自然言語解析を通じて PD 項目・利用目的の抽出を試行

実施項目①-2：

CI-PI の管理や運用・利用を支援するエキスパートのグループコミュニティの構築と活動の実施

実施内容

- 弁護士、データ利活用専門家と共に、社会システムとしての CI-PI の管理や運用・利用のあり方をデザインし、関連するステークホルダーを巻き込みながら、コミュニティを拡大するための WG を実施した。
- 当初の予定としては、専門家に加えて、ユーザ・生活者を含めた WS の実施を予定していたが、CI-PI のユースケースが多岐に渡り、ステークホルダーごとに関心および議論のコンテキストが異なることから、実施形式を WG に変更し、専門家とともに現状について分析と議論を重点的に行った。
- 並行して、WG の議論を踏まえて、ユーザ・生活者のみを対象とした WS の実施をすることとした。

実施項目①-3：

CI-PI 流通の仕組みを構築するエキスパートのグループコミュニティの構築と活動の実施

実施内容

- コンサルタント、情報法学者、「情報銀行」や「データ取引市場」の運営者などの専門家と共に、社会システムとしての CI-PI の流通の仕組みをデザインし、関連するステークホルダーを巻き込みながら、コミュニティを拡大するための WG を実施した。
- 当初の予定としては、専門家に加えて、ユーザ・生活者を含めた WS の実施を予定していたが、CI-PI のユースケースが多岐に渡り、ステークホルダーごとに関心および議論のコンテキストが異なることから、実施形式を WG に変更し、専門家とともに現状について分析と議論を重点的に行った。
- 並行して、WG の議論を踏まえて、ユーザ・生活者のみを対象とした WS の実施をすることとした。

今年度の到達点②

国際調査分析の実施。

実施項目②-1：

DP 導入のインパクト調査と影響分析

実施内容

- 第2次調査の実施と分析
 - DP 導入前後の CI-PI 情報の流通に関する意識や態度・行動の変容等を継続的に調査した。
 - 9月にフィンランドで開催された MyData カンファレンスに参加し、欧州を中心としたパーソナルデータの利活用の実態を調査し、日本国内のパーソナルデータ利活用の実態との違いを分析した。加えて、各国の関係機関等の関係者との連携を強化した。
 - 当初は、国内の調査のため、本プロジェクト独自のアンケート調査実施を予定していたが、国内でデータポータビリティの法制度化および実装が進んでいない状況に加え、国内でも内閣府等、同様の大規模調査実施が行われていたことから、それらの内容を分析し、それらを引き継ぎながら、新たな調査設計を行った。
 - 本プロジェクトが主体となり実施するアンケート調査は、次年度から実施する。

実施項目②-2：

CI-PI の流通メカニズムに関する国際調査、シナリオ分析と影響分析

実施内容

- 対話による態度変容の可能性等を考慮したシナリオ分析・影響分析
 - 当初の予定では、CI-PI 流通メカニズムに関する意識や態度・行動の変容等を継続的に調査し、その結果に基づいてステークホルダー間の相互作用を考慮しながら、シナリオを作成し、同時にそれらの影響等について分析を行うものとした。
 - しかし、現状として、特に日本国内では、データポータビリティの法制度化およびサービスにおける実装が遅れ、CI-PI の流通実現が十分には達成されていないため、制度・技術・社会受容の観点から、現状分析と課題の整理を重点的に実施した。

実施項目②-3：

CI-PI の流通におけるトラスト形成のプロセスに関する国際調査、シナリオ分析と影響分析

実施内容

- 対話による態度変容の可能性等を考慮したシナリオ分析・影響分析
 - 当初の予定では、CI-PI流通メカニズムに求められるトラスト形成のプロセスに関する意識や態度・行動の変容等を継続的に調査し、その結果に基づいてステークホルダー間の相互作用を考慮しながら、シナリオを作成し、同時にそれらの影

響等について分析を行うものとした。

- ▶ しかし、現状として、特に日本国内では、データポータビリティの法制度化およびサービスにおける実装が遅れ、CI-PIの流通実現が十分には達成されていないため、制度・技術・社会受容の観点から、現状分析と課題の整理を重点的に実施した。

(3) 成果

今年度の到達点①

(目標) CI-PI のワイズユース実現のためのプラットフォーム構築のための基盤を構築する。

実施項目①-1 :

PD の OpenPF 開発と運用
成果

- CI-PI の可視化にフォーカスした運用と改良と公開 (URL)
 - ▶ CI-PI dashboard: <https://cipi.cw503.net/>
 - ▶ Info-ban ATM: <https://atm.cw503.net/>
- CI-PI の可視化に向けたデータ連携仕様の検討とダッシュボードの試作
- 各サービスの利用規約・プライバシーポリシーを収集する仕組みの試作

サービスのPD要件の記載された利用規約・プライバシーポリシーをスクレイピングし、アーカイブする。取得した利用規約・ポリシーからのPD項目・利用目的の抽出を試行

The image shows a screenshot of a web interface with a header '利用規約 OR プライバシーポリシー'. Below it are three JSON snippets representing extracted data:

- データ利用目的:** A JSON object with fields like 'item', 'score', 'where', 'sub', and 'category'. The 'category' is 'セキュリティ'.
- パーソナルデータ項目:** A JSON object with fields like 'item', 'score', 'where', 'sub', and 'category'. The 'category' is '住所'. Annotations point to '抽出した文字列' and '正規化結果'.
- 第三者提供先:** A JSON object with fields like 'item', 'score', 'where', 'sub', and 'category'. The 'category' is '政府機関等'.

実施項目

- ① -2 CI-PI の管理や運用・利用を支援するエキスパートのグループコミュニティの構築と活動の実施

① -3 CI-PI 流通の仕組みを構築するエキスパートのグループコミュニ
ティの構築と活動の実施

成果

- 対話を通じた活動ガイドラインを改定した
- コミュニティの拡大化を図るためにユーザ・生活者を対象とした WS を合計 2 回実施した



写真 1 パーソナルWS@KANAZAWAの様子



写真 2 パーソナルデータWS@KANAZAWAの様子

- WS の内容を対話支援ソフトウェア改良へ反映した
- シンポジウムを開催し、専門家からユーザ・生活者まで幅広い参加者と共に、今後の CI-PI 流通に関する展望や課題について議論。



写真 3 2020年2月5日開催シンポジウム パネルディスカッションの様子

新たな気づきや課題

- ユーザ・生活者と専門家の間でのパーソナルデータの利活用に関する知識および意識の差が大きい。
- ユーザ・生活者においては、パーソナルデータの利活用について主体的に意識することが困難。
- 専門家においても、多様なバックグラウンドを持った専門家が共通して議論するためのフレームワークがない。
- ユーザ・生活者がパーソナルデータの利活用について、積極的に考え理解するためには、ユースケースとそれらのメリット・デメリットの整理が不可欠。

今年度の到達点②

国際調査分析の実施。

実施項目②-1：

DP 導入のインパクト調査と影響分析

成果

- 第2次調査の実施と分析
DP 導入前後の CI-PI 情報の流通に関する意識や態度・行動の変容等を継続的に調査した。

新たな気づきや課題

- パーソナルデータの利活用として、ユーザ・生活者が想定するユースケースが、パーソナルデータの提供に対する報酬としてのポイント等の付与等、限定的なケースに留まり、認知に偏りがある。

実施項目

- ②-2 CI-PI の流通メカニズムに関する国際調査、シナリオ分析と影響分析
- ②-3 CI-PI の流通におけるトラスト形成のプロセスに関する国際調査、シナリオ分析と影響分析

成果

- 対話による態度変容の可能性等を考慮したシナリオ分析・影響分析
新たな気づきや課題
- 対話の前提となる CI-PI およびパーソナルデータの流通に関するフレームワークの共有が不十分であるため、全体の体系化が必要。

(4) 当該年度の成果の総括・次年度に向けた課題

- 国際調査における海外実施調査を2-3月中の実施を予定していたため、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、実施が出来なかった。
- 各実施項目を統合し検討した結果、専門家を対象としたWGでの議論と並行し、一般ユーザ・生活者を対象としたWSを実施することとした。ユーザ・生活者を対象としたWSの実施により、専門家とユーザ・生活者間のパーソナルデータに対する知識や意識の違いが顕著となり、今後の課題が明確となった。
- 上記知見に基づき、次年度は、専門家によるフレームワーク構築を行った上で、専門家とユーザ・生活者を対象としたWSを実施する。

2-3. 会議等の活動

年月日	名称	場所	概要
2019年4月6日	RISREX WS	サイバー大手町	経済学的視点からのパーソナルデータ流通について
2019年4月16日	RISTEX 打ち合わせ	東京大学	進捗管理
2019年4月16日	WG	東京大学	<ul style="list-style-type: none"> • PDのOpenPF開発と運用一ダッシュボードの進捗報告とレビュー • DP導入のインパクト調査と影響分析—「新たな認定申請対象の追加と情報銀行認定指針の見直し」についての調査報告
2019年5月14日	RISTEX 打ち合わせ	慶應義塾大学	進捗管理
2019年5月14日	WG	慶應義塾大学	<ul style="list-style-type: none"> • CI-PIの流通メカニズムに関する国際調査、シナリオ分析と影響分析—「情報銀行等パーソナルデータの流通システムに関する経済学的側面からの課題」についての

			調査報告
2019年6月4日	RISTEX 打ち合わせ	慶應義塾大学	進捗管理
2019年6月18日	RISTEX 打ち合わせ	慶應義塾大学	進捗管理
2019年7月9日	RISTEX 打ち合わせ	東京大学	進捗管理
2019年7月9日	WG	東京大学	<ul style="list-style-type: none"> ・ PD の OpenPF 開発と運用—UI/UXの検討 ・ CI-PIの流通におけるトラスト形成のプロセスに関する国際調査、シナリオ分析と影響分析—「「7 payのセキュリティ問題について」」 ・ CI-PIの流通メカニズムに関する国際調査、シナリオ分析と影響分析—「情報銀行認定・DFFT (Data Free Flow with Trust) 」に関する調査報告
2019年8月5日	RISTEX 打ち合わせ	慶應義塾大学	進捗管理
2019年8月5日	WG	慶應義塾大学	<ul style="list-style-type: none"> ・ CI-PIの流通メカニズムに関する国際調査、シナリオ分析と影響分析—「英国Data trusts: lessons from three pilots におけるパーソナル情報利活用」」に関する調査報告 ・ CI-PIの管理や運用・利用を支援するエキスパートのグループコミュニティの構築と活動の実施—「災害発生時の人流データの活用」についての検討
2019年9月13日	RISTEX 打ち合わせ	東京大学	進捗管理
2019年9月13日	WG	東京大学	<ul style="list-style-type: none"> ・ CI-PIの流通メカニズムに関する国際調査、シナリオ分析と影響分析—「公取委「デジタル・プラットフォームと個人情報等を提供する消費者との取引における優越的地位の濫用に関する独占禁止法上の考え方

			(案) 」パブコメ」の検討 ・PDのOpenPF開発と運用—プラットフォーム開発についての進捗報告とレビュー ・CI-PIの流通におけるトラスト形成のプロセスに関する国際調査、シナリオ分析と影響分析—ヘルスケアデータの利活用に関するサービスについての調査
2019年10月15日	RISTEX 打ち合わせ	慶應大学	進捗管理
2019年10月15日	WG	慶應大学	・PDのOpenPF開発と運用—プラットフォーム開発についての進捗報告とレビュー ・CI-PIの流通メカニズムに関する国際調査、シナリオ分析と影響分析—「MyData2019参加報告」 ・CI-PIの管理や運用・利用を支援するエキスパートのグループコミュニティの構築と活動の実施—「災害用「情報銀行」サービスの実現について」に関する議論
2019年10月31日	パーソナルデータWS @KANAZAWA	金沢市 ITビジネスプラザ武蔵	パーソナルデータの利活用に対して興味関心のあるユーザ・生活者を対象とし、本プロジェクトで開発したシステムを利用したWSを実施
2019年11月26日	RISTEX 打ち合わせ	慶應大学	進捗管理
2019年11月26日	WG	慶應義塾大学	・PDのOpenPF開発と運用—プラットフォーム開発についての進捗報告とレビュー ・CI-PIの流通メカニズムに関する国際調査、シナリオ分析と影響分析—「個人情報保護法改正案およびデジタル・プラットフォーム—取引透明化法案について」
2019年12月17日	RISTEX 打ち合わせ	慶應大学	進捗管理
2019年12月17日	WG	慶應大学	・PDのOpenPF開発と運用—プラットフォーム開発についての進捗報告とレビュー

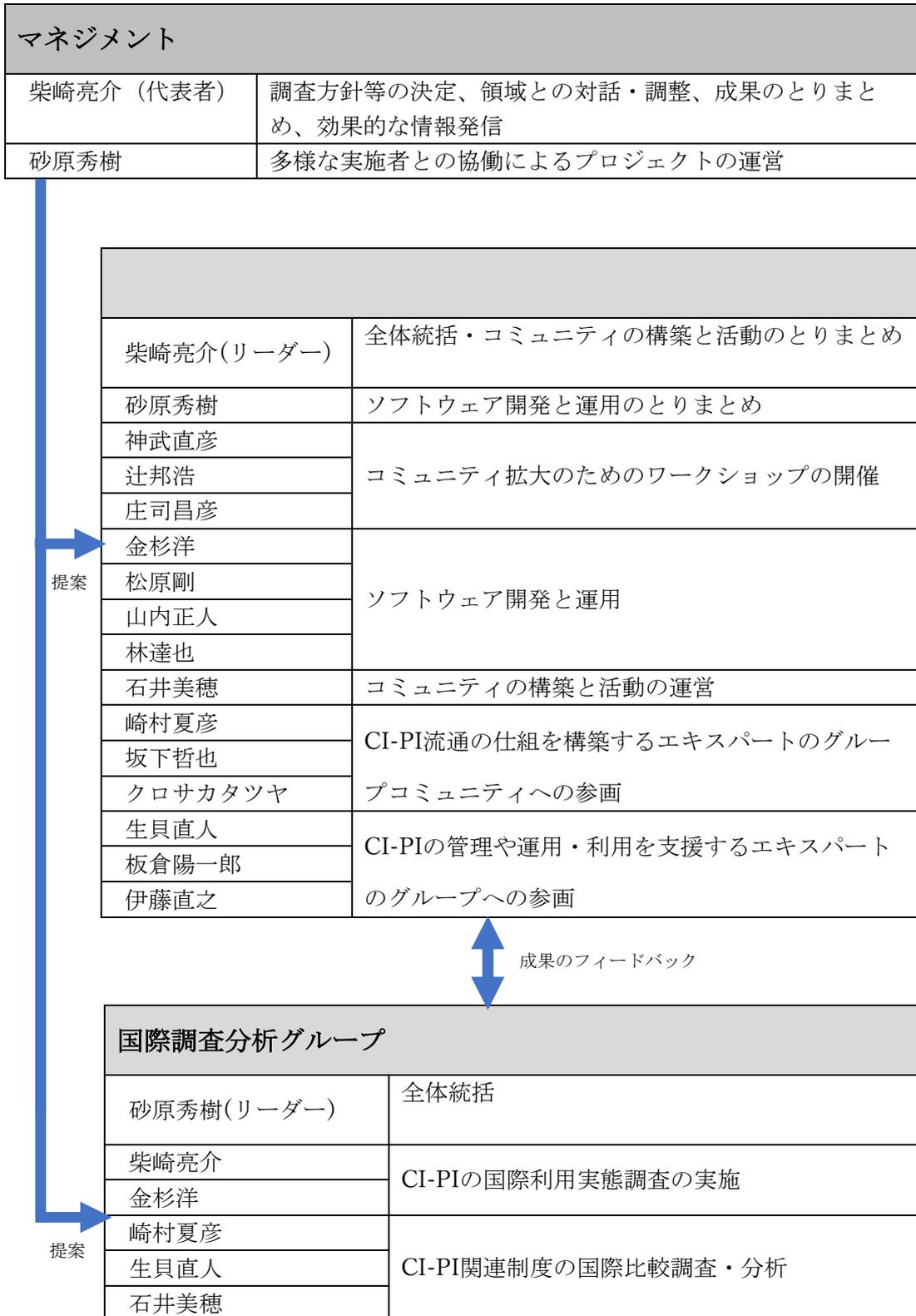
			・CI-PIの流通メカニズムに関する国際調査、シナリオ分析と影響分析—「個人情報保護法 いわゆる3年ごと見直し制度改正大綱（骨子）について」の議論
2020年1月14日	RISTEX 打ち合わせ	慶應大学	進捗管理
2020年1月14日	WG	慶應大学	・CI-PIの流通メカニズムに関する国際調査、シナリオ分析と影響分析—「個人情報保護法 いわゆる3年ごと見直し制度改正大綱（骨子）について」パブコメについての議論
2020年1月21日	RISTEX 打ち合わせ	オンライン	進捗管理
	パーソナルデータWS @KANAZAWA	金沢市 ITビジネスプラザ 武蔵	パーソナルデータの利活用ユースケースとして「SDGs」を設定。テーマに興味関心のあるユーザ・生活者を対象とし、本プロジェクトで開発したシステムを利用したWSを実施
2020年3月11日	WS	オンライン	CI-PIの管理や運用・利用を支援するエキスパートのグループコミュニティを構築するため実施するワークショップのフレームワーク作成 第1回
2020年3月5日	RISTEX 打ち合わせ	オンライン	進捗管理
2020年3月12日	RISTEX 打ち合わせ	オンライン	進捗管理
2020年3月13日	WS	オンライン	CI-PIの管理や運用・利用を支援するエキスパートのグループコミュニティを構築するため実施するワークショップのフレームワーク作成 第2回
2020年3月17日	WS	九州大学	・PDのOpenPF開発と運用—プラットフォーム開発についてUI/UXの専門家へのデモ及びレビュー
2020年3月20日	RISTEX 打ち合わせ	オンライン	進捗管理
2020年3月24日	WS	オンライン	CI-PIの流通におけるトラスト形成のプロセスに関する国際調査、

			シナリオ分析と影響分析一次年度 実施フレームワークの検討
--	--	--	---------------------------------

3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

- 東京大学・慶應義塾大学と民間企業で構成される産学コンソーシアム「インフォメーションバンクコンソーシアム」と協働し、コミュニティの構築および本プロジェクトにおいて開発したシステムと民間サービスとの連携を実施している。
- 本プロジェクトで開発したシステムや関連資料については、本プロジェクトのメンバーが中心となっている「Code for Myself」等の団体とも協力しながら、企業やユーザ・生活者が利用できるように広く公開し、ワークショップ開催等を通じて利活用・フィードバック・議論の機会を設けていく。

4. 研究開発実施体制



坂下哲也	CI-PI流通メカニズムに関する分析・調査の実施
クロサカタツヤ	トラスト形成プロセスに関する分析・調査の実施
林達也	
庄司昌彦	トラスト形成過程に関するアドバイス
伊藤直之	調査・モニタリング、実証分析の実施

5. 研究開発実施者

国際調査分析グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
柴崎亮介	シバサキリョウスケ	東京大学	空間情報科学研究センター	教授
砂原秀樹	スナハラヒデキ	慶應義塾大学	大学院メディアデザイン研究科	教授
金杉洋	カナスギヒロシ	東京大学	空間情報科学研究センター	特任研究員
石井美穂	イシイミホ	慶應義塾大学	大学院メディアデザイン研究科 附属メディアデザイン研究所	リサーチャー
生貝直人	イケガイナオト	東洋大学	経済学部総合政策学科	准教授
崎村夏彦	サキムラナツヒコ	野村総合研究所		上席研究員
坂下哲也	サカシタテツヤ	JIPDEC		常任理事
クロサカタツヤ	クロサカタツヤ	慶應義塾大学 大学院	政策メディア研究科	特任准教授
林達也	ハヤシタツヤ	慶應義塾大学	大学院メディアデザイン研究科 附属メディアデザイン研究所	リサーチャー
庄司昌彦	ショウジマサヒコ	武蔵大学	社会学部メディア社会学科	教授
伊藤直之	イトウナオユキ	株式会社インテージ	開発本部	エバンジェリスト

安藤千歳	アンドウチトセ	慶應義塾大学	日吉学術研究支援課	嘱託職員
------	---------	--------	-----------	------

CI-PI のワイズユース実現のためのプラットフォーム構築グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
柴崎亮介	シバサキリョウスケ	東京大学	空間情報科学研究センター	教授
砂原秀樹	スナハラヒデキ	慶應義塾大学	大学院メディアデザイン研究科	教授
神武直彦	コウタケナオヒコ	慶應義塾大学大学院	システムデザイン マネジメント研究科	教授
辻邦浩	ツジクニヒロ	ナレッジキャピタル		シニアディレクター
庄司昌彦	ショウジマサヒコ	武蔵大学	社会学部メディア社会学科	教授
金杉洋	カナスギヒロシ	東京大学	空間情報科学研究センター	特任研究員
松原剛	マツバラゴウ	東京大学	地球観測データ統融合連携研究機構	特任研究員
山内正人	ヤマノウチマサト	慶應義塾大学大学院	メディアデザイン研究科	特任講師
林達也	ハヤシタツヤ	慶應義塾大学	大学院メディアデザイン研究科 附属メディアデザイン研究所	リサーチャー
石井美穂	イシイミホ	慶應義塾大学	大学院メディアデザイン研究科 附属メディアデザイン研究所	リサーチャー
崎村夏彦	サキムラナツヒコ	野村総合研究所		上席研究員
坂下哲也	サカシタテツヤ	JIPDEC		常任理事
クロサカタツヤ	クロサカタツヤ	慶應義塾大学大学院	政策メディア研究科	特任准教授
生貝直人	イケガイナオト	東洋大学	経済学部総合政策学科	准教授

板倉陽一郎	イタクラヨウイチ ロウ	ひかり総合 法律事務所 理化学研究 所 国立情報学 研究所	革新知能統合研 究センター	弁護士 客員主管研究 員 客員教授
伊藤直之	イトウナオユキ	株式会社イ ンテージ	開発本部	エバンジェリ スト

6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

6-1. シンポジウム等

年月日	名称	場所	参加人数	概要
2020年 2月5日	「シン・情報銀行」"これから目指すべき本当の情報銀行の姿"	お台場科学 未来館ホー ル	200名	柴崎教授が代表理事を務める「インフォメーションバンクコンソーシアム」との共催。RISTEX橋田プロジェクト・庄司プロジェクトの協力のもと、GDPR・個人情報保護法改正・情報銀行認定制度など、パーソナルデータや個人情報を取り巻く状況が変わり始めている状況において、改めて目指すべき情報銀行やパーソナルデータ利活用の将来像について議論した。

6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

(1) 書籍・冊子等出版物、DVD等

(2) ウェブメディアの開設・運営

(3) 学会（6-4.参照）以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

- ・ 砂原秀樹、MyDataJapan、「パーソナル情報のワイズユースのための情報銀行」、2019年5月15日、一橋
- ・ 砂原秀樹、石井美穂、ロケーションビジネスジャパン、「Society 5.0時代のパーソナル情報の本格的利活用へ向けて」2019年6月14日、幕張メッセ

・砂原秀樹、G空間エクスポ2019、「目指すべき本当の情報銀行の姿 -これまでの議論を踏まえて-」2019年11月28日、お台場科学未来館

6-3. 論文発表

(1) 査読付き (0 件)

●国内誌 (0 件)

・
・

●国際誌 (0 件)

・
・

(2) 査読なし (0 件)

・
・

6-4. 口頭発表 (国際学会発表及び主要な国内学会発表)

(1) 招待講演 (国内会議 0 件、国際会議 0 件)

・

(2) 口頭発表 (国内会議 3 件、国際会議 0 件)

- ・石井美穂 (慶應義塾大学) 「包括的統合パーソナル情報のワイズ・ユースプラットフォーム構築」、マルチメディア, 分散, 協調とモバイル(DICOMO2019)シンポジウム、福島県 磐梯熱海温泉 華の湯、2019年7月4日
- ・金杉洋 (東京大学) 「スマートフォンアプリにおける要求権限の可視化の提案」、マルチメディア, 分散, 協調とモバイル(DICOMO2019)シンポジウム、福島県 磐梯熱海温泉 華の湯、2019年7月4日
- ・金杉洋 (東京大学) 他, 「位置情報サービスの規約・ポリシーにおける位置情報の自動抽出の検討」, 地理情報システム学会研発表大会, 2019.10.19

(3) ポスター発表 (国内会議 2 件、国際会議 0 件)

- ・金杉洋 (東京大学) 「スマートフォンアプリにおける要求権限の可視化の提案」、マルチメディア, 分散, 協調とモバイル(DICOMO2019)シンポジウム、福島県 磐梯熱海温泉 華の湯、2019年7月4日
- ・金杉洋 (東京大学) 他, 「位置情報サービスの規約・ポリシーにおける位置情報の自動抽出の検討」, 地理情報システム学会研発表大会, 2019.10.19

6-5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等

(1) 新聞報道・投稿 (0 件)

・

(2) 受賞 (0 件)

・

(3) その他 (0 件)

6-6. 知財出願

(1) 国内出願 (0 件)

.

(2) 海外出願 (0 件)

.